

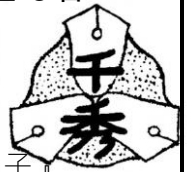
千秀だより

横浜市立千秀小学校 令和3年(2021)2月26日

3月号

URL : www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/

学校教育目標『自分で考え 表現し 挑戦し続ける子』



成長

校長 富田 操

門で子どもたちを迎えることは、私の1日の仕事の中で、最も楽しく、うれしいことです。「自分は教師なんだ」ということを実感できる瞬間でもあります。

その時々の子どもたちの表情や態度で、子どもたちの今の状態を感じることができません。そして、それに喜んだり、心配したり、困ったり、驚いたり・・・。

驚いたり・・・と言えば、1年生のある子のことが思い浮かびます。

私は、子どもたちにいつも「おはよう」と呼びかけているのですが、その子は最初私のあいさつにうなずくだけでした。その後、次第に「おはよう」と言うと「おはよう」と返すようになってきました。そして、ふと気づくと私の「おはよう」に「おはようございます」と返すようになってきました。また、しばらくすると、いつの間にか「おはようございます」と言いながらお辞儀をするようになってきました。

そして、最後には、私がいさつする前に、その子の方から先に「おはようございます」と声をかけるようになっていたのです。

子どもの「成長」を、その子が私に目に見えるわかりやすい形で教えてくれます。1年という期間がその子を、このように育てていったのです。そこに至るまでには、おそらくご家庭での指導があったに違いありません。地域の中でその子が学ぶ機会もあったでしょう。しかし、この目に見える成長はやはり間違いなく「学校」という場所があったからこそ起きたことだと思います。毎日毎日続く、「学校」での単純な、しかし何度も繰り返されるやり取りが、その子を成長させたのだと思います。

このように、「学校」というところは、子どもたちが社会に出て集団で生活したり、社会で生き抜いていったりするためにつけるべき力を身につけるのに最適な場所だと思うのです。そのことを子どもたちに学ばせていくことが「学校」の使命であり、それを実現できることが私たち教職員の誇りでもあります。

さて、こうした1年間の成長を考える時、さらに思うのは6年間の成長です。小学校の6年間は幼児を児童に、そして、生徒へと変えていきます。まだ赤ちゃんの方が近かった子たちが大人に近づいていく、大きな大きな変化をもたらす6年間です。

この激しい変化のある6年間を支えてこられた保護者の皆様のご苦労はいかばかりであったか、想像に難くありません。本当に長い間お疲れ様でした。

いよいよ、3月。卒業の日を迎えます。今年度は、コロナ禍のもと、いつもと全く同じようにはいきませんが、それでも今のところ、卒業式を行うことはできる見通しであり、学校がそれまでに突然休校になるということもなさそうです。例年と同じように、いや、この状況を鑑みれば、ある意味、例年以上に子どもたちに残せるものは何かということ熟慮し、そして活動を決めなければならないと思っています。

千秀小学校に関わる全員、保護者の皆様、地域の皆様、そして教職員・在校生で様々な今できる形で力いっぱい6年生の卒業を祝っていきたいと思います。

あとわずかですが、どうぞお力添えをよろしくお願いいたします。